

指導力向上にかかわる校内研修の進め方について

- 様々な学校課題を改善・解決できるよう、全教員で共有する校内研修を推進する。その主眼は、あくまで実践を蓄積し職員間で共有し、財産とすることにある。
- すべての先生が共通の目標の達成に向け、**共通の手立て**でアプローチする。
「単元の課題を全教科、全単元で設定」を手立てに授業改善を進めようとするのなら、**すべての先生が、日々の授業を通して、1単位時間のめあてのつながりを意識したり、本時のめあてを子供たちの発言を基に設定し、めあてに沿った振り返りを行ったりする授業を実践していくことが大切である。**
- 研修を進める際の組織については、無理なく取り組めるよう柔軟に編成する。

学習指導要領

学校教育目標 <例> よく考え、進んで学習する子・友達となかよくできる子・元気に活動できる子

※1（課題）と2（原因）を対応するように記述する

1 学校の課題について

- 困り感や悩みを出し合い、学校が抱えている問題を共有する。（アンケート・ブレインストーミング等）

<例>

- ア. 子供が意欲的に学習に取り組み、自分事として課題に取り組めるような、めあての効果的な提示について知りたい。
- イ. いつまでたっても解けないので、教師が解き方を教えてしまう。
- ウ. 説明が上手にできないので、教師が説明してしまう。
- エ. 学習内容をしっかりと理解できていない子供が多い。
- オ. アレルギーをもつ子供が入学してくる。どう対処したらよいか。



2 課題の原因（根っこの部分）について

- 様々な視点から分析する。

<例>

- ア. 単元構想や単元の課題が明確でない。1単位時間のつながりを意識できていない。
- イ. 既習事項の活用を促したり、対話的な学習を取り入れてできていない。
- ウ. 完答ばかりを求めすぎている。
- エ. 学級経営が基盤にないと、子供の考えを引き出せないのではないか。学級活動の充実が必要ではないか。
- オ. アウトプットさせる場面やその工夫が足りない。
- カ. アレルギーに対する知識や対応マニュアルの理解不足である。



3 目標を立て、手立てを焦点化する。

授業改善研修

- 目標（1年後の目指す子供の姿）を立てる。

<例> **自分の考えを持ち、主体的に学習に取り組む児童**

- 共通する課題に絞り、具体的な手立てを決める。

<例>「単元の課題を全教科、全単元で設定する」（ア～エ）

- ・単元の課題を全教科、全単元で設定し、年間指導計画に記録する。
- ・振り返りでは「分かった（分からない）こと」について必ず記入させる。
- ※手立てが複数考えられる場合には、班を編制し期間も限定して取り組んでいく。

<児童生徒の成長についての検証方法>

- ・CRTや全国学調、学校評価の数値結果
- ・児童生徒や教師による実態アンケート

資質向上研修（ウ・オ）

- 学校経営の重点と関連する内容を計画する。

<例>

- ・学級活動（1）領域における学級会の進め方について情報共有や支援の仕方を協議する。
- ・「アレルギーをもつ子供への対応」「支援が必要な子供への指導」等をバランスよく計画する。

実践結果を次年度に継承する

『学校教育の指針』
『はばたく群馬の指導プラン』
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

4 研修のスケジュール <別紙>

- スケジュールを検討し、共通理解を図る。

5 実践する。

授業改善研修

<成果と課題（報告書）>

①有効だった手立てについて

- 手立てについて**実践を試み、有効だった手立てを蓄積**していく。

<例>

- めあての提示については、前時までの既習事項を子供から引き出す教師の発問を工夫した。そのことにより、子供と共にめあてをつくることができ、結果として意欲をもって学習に取り組む姿が多く見られた。

②ここまでの取組の成果と課題について

- 実践した成果と課題を記述する。

<例>

- めあての提示、ねらいにそった振り返りを全教科、全職員で取り組んだ結果、授業改善につながり、子供たちが主体的に授業に取り組めるようになってきた。
- まとめや振り返りの時間を十分確保することが難しかったので、教材研究による発問の精選が求められる。

資質向上研修

<（ニーズ等を意識して実践した）成果と課題>

- テーマやニーズにより組織を工夫する等、OJTを意識した取組を行い、成果と課題をまとめる。

<例>

- 授業の中で何度説明しても理解できない子供がいたが、特別支援教育 Co による「支援が必要な子供の対応」で、具体的対応が分かり、実際の指導で役立った。
- 食物アレルギーをもつ子供への対応について、具体的な場面を想定したシミュレーション研修で、具体的対応の仕方が理解できた。
- ICTを活用した家庭学習の取組や空間的・時間的制約を超えた授業づくりについての研修が必要である。